

クラウド コンピューティングの利点について説明する

100 XP

5 分

クラウド コンピューティングの利点とは

クラウド環境には、物理環境に比べて優れている点がいくつかあり、Tailwind Traders は Azure に移行後、これらを使用することができます。

- **高可用性:** 選択するサービス レベル アグリーメント (SLA) に依りますが、問題が発生した場合でも、クラウドベースのアプリであれば、明らかなダウンタイムを発生させることなくユーザー エクスペリエンスを継続的に提供できます。
- **スケーラビリティ:** クラウド内のアプリは、"垂直方向" と "水平方向" にスケーリングできます。
 - 垂直方向のスケーリングは、仮想マシンに RAM または CPU を追加することで、コンピューティング容量を増やします。
 - 水平方向のスケーリングは、構成に VM を追加するなど、リソースのインスタンスを追加することで、コンピューティング容量を増やします。
- **弾力性:** クラウドベースのアプリは、自動スケーリングを利用するように構成できるため、アプリに必要なリソースを常に確保することができます。
- **機敏性:** クラウドベースのリソースは、アプリ要件の変更に応じて迅速にデプロイおよび構成できます。
- **geo ディストリビューション:** アプリとデータを世界中のリージョンのデータセンターにデプロイできるため、顧客に、使用しているリージョンで常に最高のパフォーマンスを保証することができます。
- **ディザスター リカバリー:** クラウドベースのバックアップ サービス、データレプリケーション、geo ディストリビューションを利用すると、障害が発生した場合でもデータが安全であることがわかっているので、自信を持ってアプリをデプロイできます。

クラウド コンピューティングは、従量課金ベースのモデルです

クラウド サービス プロバイダーは、従量課金ベースのモデル を運用しています。つまり、エンドユーザーは、使用したリソースに対してのみ課金されます。支払うのは使った分だけです。

従量課金ベースのモデルには、次のような多くの利点があります。

- 初期費用は不要です。

- すべての機能をユーザーが使用するかどうかわからないコストの高いインフラストラクチャを購入したり、管理したりする必要はありません。
- 追加のリソースについては、必要になった場合にのみ支払うことができます。
- 必要なくなったリソースについては、支払いをやめることができます。

資本支出と操業費用

検討する必要がある費用として、次の 2 種類があります。

- **資本的支出 (CapEx)** は、物理インフラストラクチャに費やす初期費用であり、この初期費用は長期にわたって控除されます。CapEx による先行投資の価値は、時間の経過と共に減少します。
- **運用費 (OpEx)** は、現在サービスや製品に費やしているコストで、現在請求されている金額です。この費用は、支出したその年に控除できます。サービスや製品を使用したときに料金を支払うため、初期費用はありません。

つまり、Tailwind Traders がインフラストラクチャを所有する場合、機器を購入し、それを貸借対照表に資産として計上します。資本投資が行われたため、会計士はこの決済勘定を CapEx として分類します。時間の経過と共に、資産の有限な寿命を考慮して、資産は減価償却または割賦償還されます。

一方、クラウド サービスは、その従量課金モデルを理由に、OpEx として分類されます。Tailwind Traders が償却する資産はなく、物理的な機器の購入と寿命に関連するコストはクラウド サービスプロバイダー (Azure) によって管理されます。その結果、OpEx は、貸借対照表に計上される純利益、課税所得、関連費用に対して直接影響を与えます。

要するに、CapEx には、多額の初期費用と継続的なメンテナンスおよびサポート費用が必要です。対照的に、OpEx は従量課金ベースのモデルであるため、Tailwind Traders は、使用したコンピューティング リソースの費用のみを負担します。